



本年もご支援賜り、誠にありがとうございました。

2024年の幕開けは能登半島で大地震の発生でした。被害が甚大過ぎて復興にはまだまだ時間がかかるそうです。被災された皆様と現場で関わる皆様の健康と安全、そして一日も早く元の穏やかな生活に戻れるよう心から願います。

私共は新潟、東日本、熊本などの被災地において防犯パトロールなどに積極的に協力して参りました。現在、国による災害救援 NPO やボランティアの見直しが行われており、それぞれの活動内容に応じ、迅速により効果的な災害時の緊急体制の整備が進んでおります。それに呼応してガーディアン・エンジェルズも防犯活動で貢献したいと考えております。

昨年2023年は無関係な人を巻き込む犯罪を「兆候なき犯罪」と名付け、孤独や孤立を理由に利己的な価値観の中で生まれた悪質な手口に、多くの人々が今後の不安を訴えました。そして本年の社会現象としては、高額なアルバイトをSNSで乗せられた若者が実行する「闇バイト強盗」が横行しました。これにより増々人々の恐怖心が煽られ、体感治安の悪化につながっています。

実際に本年2024年を振り返ると、流行語大賞には「トクリュウ」と「ホワイト案件」がノミネートされ、「闇バイト強盗」が多くの人々に関心と恐怖を与えていることが窺われます。一例として、自分や家族を守るために全部の窓に鍵を取り付け、防犯カメラはもちろんのこと、庭には音の出る砂利を撒き、寝室のドアにも鍵をかけ、枕元に金属バットを置いて寝る人がいます。

このような不安に怯える生活を止めるには、防犯グッズなどを利用するハード対策と、それぞれが鍵をかける、バッグの持ち方を工夫するなどソフト対策を確実にを行い、さらに地域総ぐるみでまちの見守りが効果的です。ガーディアン・エンジェルズは、住民が防犯意識を向上させる火付け役になるべく活動しております。

急速に移り変わる社会とともに犯罪も変化し、抑止対策も日々進化し続けています。現在、世界でもまれにみる安全な国日本は、人々の強い絆が一端を担ってきたと言っても過言ではないでしょう。闇バイトにしても、一昔前には「そんなうまい話はない」「高額バイトには裏がある」などおせっかいな人が周りにいて、被害を防いでくれていたのではないのでしょうか。

傘立てから傘が盗まれない国、子供が一人で登下校できる国、保護司制度が成り立つ国、世の中がどんなに変化しようが、どこかに日本人の善良さを残しておきたいと望むのは難しいことでしょうか。ガーディアン・エンジェルズは、防犯活動と共に日本人の良き絆を守っていききたいという思いを強くしているところです。

本年もお世話になりありがとうございました。



2024年12月吉日

特定非営利活動法人

日本ガーディアン・エンジェルズ

理事長 小田 啓二